みつくら

令和　５年　３月１５日　　第３８２号
発行　　大瀬川活性化会議
編集　　「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川１０－４５－２
大瀬川振興センター　電話４５－６４７２

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

８区自治公民館で軽スポーツ大会

第８区自治公民館（菅原洋二館長）では、１月１９日に役員、選手など２３人が参加した軽スポーツ大会が大瀬川振興センターで行われた。種目は、ボッチャと輪投げの二種目で久しぶりの交流を楽しんだ。

菅原館長は「今日の軽スポーツは、今流行っているボッチャと皆様おなじみの輪投げで親睦を深めていただきたい」と挨拶した。審判長は板垣幸夫さん、審判助手は熊谷レイ子さんと板垣福子さんがつとめ、審判長からルールなどの説明があった。初めて経験した方も「やってみると割に簡単でこれだば誰にも出来るじぇ」と楽しんでいた。

成績はボッチャでは、１位Ａチーム（板垣邦博さん、菅原銀一さん、菅原房子さん、菅原得之さん）、２位Ｂチーム（畠山勝栄さん、板垣公さん、板垣賢仁さん、菅原昇さん、辻村智さん）、３位Ｄチーム（菅原佳子さん、熊谷レイ子さん、板垣福子さん、菅原美代子さん）、４位はＣチーム（板垣征子さん、板垣昭栄さん、菅原洋二さん、熊谷俊哉さん、板垣江利子さん）。輪投げは、１位４０点板垣幸夫さん、２位３０点板垣公さん、３位２９点辻村智さんであった。

最後に、板垣審判長から「ボッチャでは女性の活躍が目立ちましが、勝敗よりも３年振りに開催でき親睦をはかれた事がとても良かったです」と講評があった。

板垣さんの県芸術祭写真が巡回展示

第７５回岩手県芸術祭の写真部門で板垣弘清さんの「山麗の景」が部門賞に輝いた。花巻市文化会館では１月２７日から２９日まで上位部門賞以上８点の巡回美術展が開催された。これに先立って県民会館で行われた１０月２０日から３日間の展示では、入選作品を含め１２３点の写真を鑑賞することができた。

「山麗の景」は秋田県にある森吉山の森林に初雪が降った様子を捉えたもので、板垣さんは「秋の森吉山を撮ろうと行ったところ偶然５㎝の初雪に見舞われたがそのお陰で秋と初冬が混在する風景を撮ることができた」と語られた。作品に対する審査員の講評は「冬が迫りつつある中に所々ある紅葉が季節の変わり目の一瞬を写し出している」とあった。

また、板垣さんはこれとは別に、２月１７日から３日間アイーナで開かれた第４３回岩手県写真連盟公募展にも入選し「固唾をのんで」と題した、たろし滝を計測している瞬間を撮った写真が展示され、臨場感あふれる作品であった。

表　　彰（敬称略）

花巻市ゲートボール協会石鳥谷支部長表彰
　菅原サツさん（中ノ根家）令和４年１０月
花巻市長産業功労表彰
　菅原富男さん（小薬師）令和４年１０月

たろし滝の太さは５．４ｍ

大瀬川たろし滝測定保存会（熊谷幸夫会長、会員１４８名）主催のたろし滝測定会は、２月１１日に約７０名が参加して行われ、当日は、板垣和郎さんの司会で菅原洋二副会長の開会の後に、参加者全員で豊作祈願を行った。続いて、大瀬川神楽保存会による御神楽奉納では、畠山絹雄さんの笛と熊谷美奈子さんの太鼓、熊谷雅人さんの鉦に合わせ、熊谷茂さんの声立て、熊谷和典さんと藤原美輝さんが権現舞を奉納した。その後役員７名がたろし滝に巻き尺を回し、市長代理の菅原浩孝石鳥谷総合支所長から「５ｍ４０㎝」と太さが発表された。熊谷会長から、「昨年も５．４５ｍでしたが、作況指数は９９の平年並みでした。コロナ禍で何かと大変な折ではありますが、今年も工夫と努力次第で豊作を期待したい」と挨拶があり、恒例となっている会長川柳は「たろし滝 皆の熱意が大臣賞」と詠まれた。達増知事からは祝電と共に川柳が披露され「幸せの　彩り映える　たろし滝」と司会者が紹介した。また、来賓の菅原市長代理は「日頃、市政に対しましては、皆様にご協力を頂いており感謝しています。４９回目となる今回の測定会ですが、こうした皆さんの活動が花巻市の風物詩として、全国に発信して頂いていることに敬意を表します」と祝辞を述べた後、「資材高　米価を上げてと　御柱」と川柳が詠まれた。次に、佐々木順一県議からは「県内には多くの世界遺産がありますが、たろし滝も正に世界の宝です」と述べられ、「たろし滝　世界の宝　ここにあり」と詠まれた。前夜からの大雪で、北上からの電車が遅れて参加となった来賓の東京都立大学 松山洋教授は「令和４年の気象は夏は暑く、冬が寒かった。一見普通のように感じるが、極端な暑さと寒さもラニーニャ現象の表れです」と述べた。

この大雪で、花巻市も朝早くから道路の除雪を行ったり、保存会の役員達も早朝から道踏みや、滑らないように階段づくりに当たったという。また、測定会中には交通安全協会大瀬川分会の方々が交通整理を行っている。測定会の様子は岩手朝日テレビとめんこいテレビで翌日放映されたが、ＮＨＫテレビでも視た方があったとのこと。

花巻市が１月２１日に架設した橋は２月２８日に撤去され、橋を利用した期間は３８日間であった。

くずまる大学で映画会

くずまる大学（菅原富男自治会長）の第４回講座は、２月２８日に大瀬川振興センターで開催され２８名が受講した。

主催者の熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長は「大瀬川の現在は青年、婦人団体が無くなって、女性や若い方々の提言を得る機会が少なくなっています。活性化会議ではこれらの打開のために、女性を対象に「わたかふぇ」、青年部を対象に「オレカフエ」を開いています。この前は「オレカフエ」のワークショップを開いて大瀬川の課題を話し合い、その中で、「人口が減っている現在、７区だの８区だの区別なく、盆踊りなども大瀬川全体で取り組むのも一考ではないか」等の話が出ており、年配の方々と一緒の会合では、若い方々の提言や意見が少ないので引き続いてこうしたカフェを開いていきたい」と挨拶があった。

令和４年度最終回の講座は「昭和の岩手　なつかし映像集　いわてアーカイブの旅」と題したＤＶＤ鑑賞会で、昭和３４年頃～昭和４８年頃の記録映像が写し出され、「川徳屋上遊園地」では若い頃に子供を連れて行ったとか、「花巻電鉄」では電車に乗って志戸平遊園地に行ったなどと当時の映像が懐かしかった。ほかにも一関～盛岡駅伝、花巻まつり、金色堂の改修とミイラの保存、蒸気機関車、第１回岩手国体、北限の海女など、総てが昔を思い出す映像であった。

鑑賞会後には閉講式が行われ、菅原富男自治会長から「今年度もコロナ禍で運営に苦慮しましたが、皆さんの協力で計画通り４回の講座を開くことができました。来年度もよろしくお願いします」との挨拶があった。

卯年の厄払いに８人が出席

大瀬川合同年祝い実行委員会（菅原一禎委員長）主催の厄払いは、対象者５０人の内８名と主催者８名合わせて１６名が出席して２月１９日に山祇神社で行われた。

厄年で出席した方は４２歳の辻村智さん（久助家）、６３歳の菅原文子さん（茶畑竈家）、７２歳の菅原洋二さん（旦乃花家）、菅原弘雄さん（札立場家）、畠山孝二さん（惣助竈家）、７３歳の畠山久子さん（万蔵竈家）、８２歳の菅原新一郎さん（万吉竈家）、菅原得之（長八ド竈家）さんであった。

「どーん・・・　どーん・・　どーん・どん　どん　どんどん　どどどどどん」の太鼓の音とともに始まった厄払いの祈祷は、板垣公さんの司会で、直町清均宮司の祝詞では対象者全員の名前が捧げられ、その後に参列者全員が玉串を捧げた。厄払い後に直町宮司は「古来、年祝いは人生の中で節目にあたる年で、災いに遭われないようにと厄払いが行われています。皆さんもこの節目を機会に、ますます社会に貢献されることでしょう」と述べた。終了後には、社殿前で記念写真を撮り、授かったお札とお守りを手に散会した。

みつくら

令和　５年　　３月１５日　　第３８２号
発行　　大瀬川活性化会議
編集　　「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川１０－４５－２
大瀬川振興センター　電話４５－６４７２

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

あじさいの会で「いきいき講座」

あじさいの会（板垣福子会長）では、１月３１日に大瀬川振興センターで１０人が参加して「いきいき講座」を開催した。講師は市健康福祉部 長寿福祉課の高橋美佳子さんと佐藤昭子さん、石鳥谷地域包括支援センターの内藤啓介さんで、健康寿命を延ばすための健康運動を学んだ。

講義では運動を体験しながら、普段使われていない筋肉がいかに大切かを教えられた。その中の一つに、腕組みをしながら椅子から片足で立ち上がる動作があって、やってみるとなかなか難しいものだった。

この運動は、膝から腰全般の筋肉を鍛える事と、バランス感覚が養われ、転倒を防ぐ事ができるという。

ほかに、毎週行っている「元気でまっせ体操」をひとつ一つ分析して、身体のどの部分に役立っているのかも学んだ。

この講座は、長寿福祉課が各ボランティア団体に働きかけて開催しており、１月１８日に９区のたんぽぽの会でも行われている。

冬道の転倒が増える時期に的を射た企画であった。

菅原さんが東北農民管弦楽団定期演奏会に出演

２月２６日に花巻市文化会館で行われた東北農民管弦楽団第７回定期演奏会で、菅原智子さん（南田家）が合唱団の一員（ソプラノ）として「第九」を歌った。

演奏会では、楽団員７０名と合唱団７５名の１４５名が約９００名の観客を前に舞台に立った。

菅原さんはエコーくずまるの会員のほか、花巻第九の会「テラムジーコ」の会員でもあり定期演奏会にも出演している。ほかにも、一昨年ＮＨＫのど自慢に出場し、八代亜紀さんと話されている。

石鳥谷の出演者はほかに、「楽友会」の菊池優子さん（好地）がチェロを弾き、いしどりや眼科の玉木光子院長はバイオリン、玉木さんの妹の玉山得子さんはソプラノ、八重畑の「やえはた自然農園」藤根生悦さんは弦楽器のベース、奥様の藤根香里さんは、同じ八重畑の晴山三恵子さん、北寺林の鎌田アヤさんらとアルト（合唱）で出演していた。

祈年祭（春祈祷祭）とどんと祭を行う

２月１１日に山祇神社では、役員と氏子代表の２３名が参加し、直町宮司の祝詞のもと祈年祭を祈願した。

祈年祭終了後は、直町宮司の祝詞のもとに氏子から集められた御札や正月飾りなどを焼くどんと祭も行われた。

次の神事は、４月の火防祭が予定されている。

たんぽぽの会で「お雛祭り」

たんぽぽの会（熊谷幸子会長）では、３月１日に９区自治公民館に１６人が集い「お雛祭り」のサロンを開いた。

熊谷会長の音頭でお雛祭りにちなんだ春の歌を歌ったり、折紙などをして楽しんだ。久しぶりのサロンとあって、そちこちで会話が弾み、賑やかな時間を過ごした。おしまいに「幸せなら手をたたこう」をみんなで歌って、帰りには華やかな具をちりばめたちらし寿司を手に手に散会した。

大瀬川の四方山話「大瀬川」と「葛丸」の語源や由来

葛丸川や葛丸渓流などの「葛丸」の語句は、全国に大瀬川以外には見当たらない。

大瀬川に葛丸を冠した語句には、葛丸山国有林がある。葛丸山という山は無いが、葛丸川に注ぐ支流沢全体の奥山の山嶺が市町村境であり、その境に囲まれた全部の山をまとめた山嶺が葛丸山である。葛丸往来とは藩政時代の畑部落に通じる現在の市道大瀬川線であったし、葛丸ダムや宮沢賢治の短歌「葛丸」はつと（夙）に有名だ。葛丸大橋は葛丸ダムに架かる橋で山王海に通じている。また葛丸温泉は現在の千鳥苑温泉の発掘当初の名で、ほかにも「葛丸川淡水魚愛護組合」や「エコーくずまる」、「くずまる大学」などにも使われている。では、葛丸の語源は何処から来たのか。石鳥谷町史にそのヒントが隠されている。

町史によると、今から１２１９年前の延歴２３年（８０４）に坂上田村麻呂は陸奥を平定し、国家安穏を祈願するために一宇を建て十一面観世音を安置し、その臣下である瀬川葛丸をこの地（現在の大瀬川。当時は大瀬川の名は無かったと思われる）に留め置いて宮仕せしめた。瀬川葛丸は、自分の信仰する保食神（うけもちのかみ）、大山積命（おおやmずみのみこと）、誉田別命（ほんだわけのみこと）をその堂内に配詞し、これを八千穂稲荷大明神と称し、現在の旧神平家付近に祀った。それから四百五十年後の大瀬川館について、町史には「八千穂稲荷大明神を瀬川氏の氏神として祀った」とある。

町史によると、館山城の瀬川隠岐という殿様の瀬川の姓は、畠山重忠（１１６４～１２０５）の孫である畠山平太郎が稗貫氏の家臣伊藤家の養子となり、一旦伊藤平太郎を名乗ったが、稗貫氏から瀬川の姓を授かり瀬川隠岐を名乗ったとある。瀬川の大殿様が「大瀬川」となった関係が書かれている（町史には異論も併記されている）。

八千穂稲荷神社とは、現在も旧神平家の氏神として旧母屋続きで現存している。瀬川葛丸の後に瀬川を名乗った瀬川隠岐まで実に４００年間細々と続いていたのではないか。

訃　　報

左仁衛門竈家初代の菅原ソメさんは２月２４日に９０歳で亡くなられました。

菅原さんは新田竈家のお生まれですが、当時一家は、まだ本家の新田家で暮らしていて嫁入りも本家からでした。大瀬川家族写真集によりますと、菅原さんが嫁がれてから２年後に新田竈家が現在地に分家しています。菅原さんが嫁がれた昭和２６年には、まだ終戦直後で大瀬川でも食糧難の時でしたから、本家の左仁衛門家に一家が同居していました。その２０年後に菅原さん一家４人が現在地に分家していますのでご主人の菅原一雄さんと共に苦難な時代を過ごした方でした。

菅原さんで思い出すのは、ご主人が盛岡動物公園の猿山（岩模様）造りに携わったことでした。昭和年代の末期まで高度経済成長で、丁度その頃に盛岡松園団地や盛岡動物公園の建設ラッシュが続き、板垣光巳（鴨屋敷家）さんが人夫頭として大瀬川の方々を連れて盛岡で一緒に働いている中、力が強く相撲の選手でもあったご主人は動物公園の建設に回され、猿山の完成まで携わり平成元年に開園しました。その動物公園もこの春にリニューアルオープンとなり、時代を感じてしまいます。

昭和６０年から石鳥谷町保健補導員も担われました菅原さんに、謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

事務室　お気軽にお入り下さい

「たろし滝」の測定で今年は「並作で、工夫と努力次第で豊作」の作況が報じられたが、この時期は全国でも農作物を占う行事が多くある中、県内で行われた神事の一部を紹介する。

１月１４日一関市藤沢町の白澤神社では、鍋に米と竹筒を入れ、藁を燃やして粥を炊き、竹筒の中に入った米粒の数を数えてその年の天候や作柄を占う筒粥の神事「おためし」が執り行われ、小野寺宮司から、「全体的には、天候・作柄ともよし。ただし、作物によっては努力が必要となるものもある」と託宣されている。また、１月１５日には平泉町の毛越寺にある作物を神とした摩多羅神を祭る「常行堂」で五穀豊穣を祈願して行われた「作様（さくだめし）」で藤里貫主が作物ごとにくじを引いて占った結果、稲作は不作、麦は豊作、豆類は大豆が不作で小豆は平年作、他にもタバコや蚕も不作との結果が出た。番外で占った気候でも雨八分で平年並み。今年は全体的に悪く気候をはじめ農作物の管理には注意が必要と出ているため、藤里貫主は「摩多羅神の祭礼結願となる２０日まで、豊作となるよう祈祷する。」と語っていた

そう言えば、９区自治公民館の新年交賀会で故藤原米光さんが語っていた「東方朔秘傳書（菅原清太郎写）」が公民館の書棚にあるのを思い出し、令和５年の分を見ると「みつのとう年は、正・二・三月日でり、四・五・六月水あり、七・八・九まで半日でり、病はやる。世の中は都合なり」と書いてあった。さて、今年の気候と作柄どうなることか。